

2024年4月入学岡山大学大学院社会文化科学研究科博士前期課程【2月募集】入学試験問題

講座	日本・アジア言語文化論
専門科目2	日本語試験（日本文学選択者）

次の【A】【B】【C】【D】の文章を読んで、後の問いに答えなさい。解答は解答用紙に書きなさい。解答用紙にはどの設問の解答か、分かるように書きなさい。解答は縦書きでも横書きでもかまいません。（なお、出題に際し、表記を改めた箇所がある。）

- 問1 ①「けっこう」の語を用いた文を作りなさい。
- 問2 ②の「謙遜」の読みを書きなさい。
- 問3 ③の「深読みすれば」とはどのような意味か、説明しなさい。
- 問4 ④の「ゼンテイ」を漢字に直しなさい。
- 問5 ⑤の「居直る」の意味を書きなさい。
- 問6 ⑥「保険をかけた表現」とはどのような意味か、説明しなさい。
- 問7 ⑦の「ハイボク」を漢字に直しなさい。
- 問8 ⑧「『評価』自体には、よい場合も悪い場合もあるが、『評価されている書物』『その努力を評価したい』といえは、『よい』意味に限られる」とある。「結果」「評価」と同様、文脈によって、意味的にプラス（良い意味）で使用されることばを一つ挙げなさい。
- 問9 ⑨の「ノ」を漢字に直しなさい。
- 問10 ⑩の「俗語的」の意味を書きなさい。
- 問11 ⑪の「ショウリヤク」を漢字に直しなさい。
- 問12 ⑫「携帯電話は「携電」となるはず」と筆者が述べる理由を書きなさい。
- 問13 ⑬「こんな奇妙な略語のパターン、探してみると仲間がいた」に関して、本文に挙げられている「仮設（仮設住宅）」「スーパー（スーパーマーケット）」の他に、どのようなことばがあるか、例を思いつく限り挙げなさい。
- 問14 ⑭の「頻度」の読みを書きなさい。
- 問15 ⑮の「それにしても」の語を用いた文を作りなさい。
- 問16 ⑯「携帯（ケータイ）」という語に対して、筆者は「不思議なことばではある」と述べているが、それはなぜか、説明しなさい。
- 問17 ⑰の「抵抗感」の読みを書きなさい。
- 問18 ⑱について、「々」の「使い方のルール」を本文の内容をふまえて書きなさい。
- 問19 ⑲について、筆者は「某新聞社は一時「毎日毎日働いている」の「毎日毎日」のような場合を「毎日々々」という形式で書いていたが、これもルール違反であると述べているが、それはなぜか、説明しなさい。

(注) 次の【A】【B】【C】【D】の文章とは、佐竹秀雄『サタケさんの日本語教室』  
(2000年・角川書店) 15頁、16頁、21頁、169頁である。※出題の都合上、文章の一部を加工している。